

# 学校読書活動の取組【綾部市立中筋小学校】

## 1 実践テーマ

「読書の質を高め、読書の幅を広げることを目指して～児童が主体的に活用できる学校図書館～」

## 2 学校の概況

本校は、綾部市の西部、市を東西に流れる由良川の南側に位置しています。校区の西側は福知山市に隣接し、農地と住宅が入り交じった地域です。また、「中筋幼稚園」が隣接しており、園児と児童の交流もよく行われます。



本校は綾部市の小中一貫教育の中で綾部中学校ブロックに属し、ブロック内の各学校が「自立と貢献～夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く子どもの育成～」という共通の教育目標を掲げ、幼・小・中学校が系統的で

一貫性のある指導ができるよう、取組を進めています。地域の方々は学校の教育の推進に協力的であり、読み聞かせや見守り隊活動、ゲストティーチャーなど多くの場面においてご支援いただいています。

令和3年度の在籍児童数は255名、特別支援学級3学級を含む13学級という規模の学校です。

家庭・学校・地域社会の三者が連携し、児童が読書に進んで親しめるよう様々な取組を進めてきましたが、個人差が大きく、読書習慣の形成には課題が見られました。

## 3 実践内容

### (1) 児童が利用したくなる図書室づくり

#### ア 児童への図書アンケートの実施

- 児童にアンケートを行い人気のある図書を配架したり、シリーズになっている図書を全て揃えたりして、「読みたい本が置いてある図書室」にすることを目指しました。



#### イ 新しい書架の設置

- 新しい書架を設置したことにより、同じシリーズを別置としてまとめて配架することができました。また、棚の高さが低く、図書が置きにくい場所は絵本を平面配置としました。



#### ウ 別置コーナーの設置

- 「こどもの本総選挙ベスト10 コーナー」「シリーズ作品があるお話コーナー」「毎月のお楽しみコーナー」「保護者おすすめの本コーナー」「学年別おすすめの本コーナー」の5つの別置コーナーを常設しました。

#### 毎月のお楽しみコーナー

季節や行事などに合わせて、テーマに沿った本を集めました。



#### 保護者おすすめの本コーナー

「子ども読書の日」と関連させ、保護者に推薦図書の紹介を依頼しました。推薦文を掲示するとともに、図書は平面配置をしました。



## エ 地域の方より寄贈された本コーナーの設置

- ・ 地域の方から約 200 冊の図書の寄贈があり、コーナーを設置しました。「寄贈書」のシールを貼り、他の図書と区別をした別置としています。



## オ 感染症対策を実施した図書室利用のルール作成

- ・ 入室前後の手指消毒や換気の徹底、図書室での会話の禁止などのルールを作成しました。また、学級ごとに利用できる時間を設定することで、従来通り図書室が利用できるようにしました。



## (2) 地域人材の活用（ボランティアなどとの連携）

### ア 読み聞かせボランティア

- ・ 全校朝読書の時間に週1回、1・2年生を対象に7名のボランティアの方々に読み聞かせをしていただいています。今年度は感染症対策として10月から2カ月間の実施となりました。今後は、読み聞かせアーカイブの作成も検討しています。



### イ PTA文化・教養部

- ・ PTA文化・教養部の活動として、おすすめの本を紹介していただきました。「学年別おすすめの本コーナー」から選んだ図書の紹介文を一覧にし、図書室に掲示しています。また、図書室開放の一つとして、参観日などを活用した保護者の方や地域の方への図書貸し出しも計画しています。



## (3) 児童会活動（図書委員会）

### ア 日常活動

- ・ 図書室を毎日開放し、朝休み・業間休み・昼休みに図書委員がバーコード管理での図書の貸し出し作業や返却作業、整理を行っています。

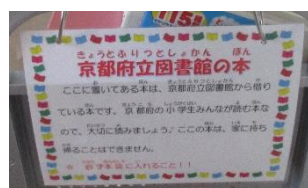
### イ 月別活動

- ・ 「低学年への読み聞かせ」「図書委員おすすめの本紹介」「図書室においてほしい本アンケート」「スリーヒントクイズ」などの取組を実施しました。低学年への読み聞かせでは、読み聞かせボランティアの方々と同じように紙芝居枠を使用して行いました。

## (4) 授業における学校図書館の活用

### ア 並行読書の実施

- ・ 学級文庫に設置している「この作者読もうボックス」の内容を充実させるため、図書の種類を増やしたり、同じ図書を複数配置したりしました。また、作者の伝記なども配置し、児童が興味を持てるようにしました。5年生国語科「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」の学習では、司書教諭（加配）が単元の導入に伝記のブックトークを行い、図書活用の方法を指導したり、読書活動への意欲を高められるようにしたりしました。
- ・ 京都府立図書館の学校支援セットを活用することで、学習における並行読書に必要な図書を複数用意することができました。

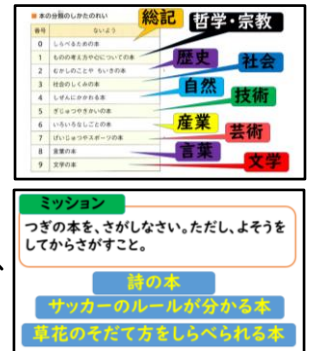


イ 授業における図書活用の提案

- 各教科の学習で効果的に図書活用ができるよう、担任と司書教諭（加配）が相談しながら単元構成を考えたり、図書の選定を行ったりしました。必要な図書が学校に無い場合は、綾部市図書館や京都府立図書館を利用しました。

ウ 図書室を活用した国語科の指導

- 各学年の国語科「本は友達」の学習を司書教諭（加配）が図書室で行いました。学習内容に応じて分類による配置を調べたり、別置コーナーなど図書室の工夫を考えたりしました。図書室で学習を行うことで、実際に見て回りながら学習を進めたり、教師が提示したヒントから図書を見つけたりする活動もできました。また、担任一人でも授業が効果的にできるよう、プレゼンテーションソフトを活用した教材を作成しました。



(5) 児童の読書活動を充実させる取組

ア 「この本読もうボックス」の設置

- 学級文庫に「この本読もうボックス」を設置し、国語教科書に掲載されている「この本読もう」「本の世界を広げよう」掲載図書を全て揃えました。朝読書の時間にはこのボックスから図書を選び児童も多く、読書の幅を広げることにつながりました。また、教科書で紹介されている図書がすぐに読めることで、読書への意欲も高まりました。

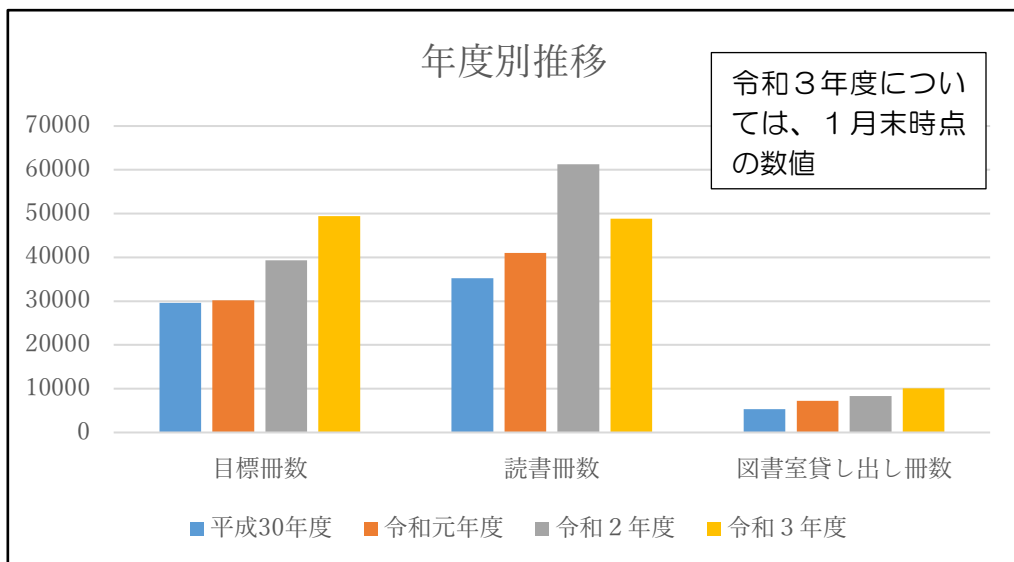
イ ファミリー読書ウィークの実施

- 毎月、1週間のファミリー読書ウィークを実施しました。児童は、図書室で「9分類」の図書を3冊借り、家庭で家族と一緒に読書活動に取り組んで記録用紙に記入します。家族の方が読まれた図書や感想等も記録してもらい、図書室便りに掲載しました。また、今年度も「15分の読書タイム（いちごの時間）」を設定しました。15分の読書タイムを継続して実施することで、積極的に実施をされる保護者の方も増えてきました。



ウ 図書ファイルの作成

- 昨年度の自分の読書冊数をもとに、本年度の目標読書冊数を決めます。月末に集計を行い、全校の読書冊数及び達成率を廊下に掲示しました。児童の実態に即した記録用紙となるよう毎年内容を変更したり、昨年度の自分と比べながら目標設定をしたりすることで、毎年読書冊数が増加しています。



## エ 電子書籍の導入

- ・ タブレット端末を活用し、電子書籍や小学生新聞デジタル版を導入しました。電子書籍は、朝読書の時間や家庭学習として使用しました。児童全員に一齐に同じ図書を読ませることができるため、並行読書として大変効果的でした。簡単に図書の検索ができることもあり、高学年を中心に読書への意欲が高まりました。

## オ 全校一斉朝読書の実施

- ・ 週3日、8時25分～8時35分を朝読書の時間としました。実施方法を教職員全員で確認し、全校で統一した指導を行うことで、児童全員が落ち着いた雰囲気の中で読書を行うことができました。

## カ 図書室便りの発行

- ・ 学校図書館の情報を発信し、児童や保護者が図書室に興味を抱くことができるよう、図書室便りを発行しました。学期ごとの学年別図書室貸し出し冊数や人気図書のランキング、別置コーナーの紹介など、図書室の様々な情報を発信しました。今年度は1月末時点で18号発行しました。



学年別図書貸し出し冊数

1学期に各学年の図書室での貸し出し冊数を紹介します！

学年	貸し出し冊数	図書室での貸し出し冊数
1年生	910冊 (2人貸出25冊)	74冊
2年生	1,141冊 (2人貸出31冊)	122冊
3年生	1,272冊 (2人貸出24冊)	104冊
4年生	2,733冊 (2人貸出9冊)	18冊
5年生	5,206冊 (2人貸出10冊)	37冊
6年生	3,156冊 (2人貸出7冊)	16冊

発行部局 東京都立中央図書館 2023年度第1学期  
TEL: 03-5422-2222 FAX: 03-5422-2223

## (6) その他の取組

### ア 公立図書館との連携

- ・ 綾部市図書館には、学期ごとに年3回のブックトークをお世話になったり、授業で使用する図書を借りる場合には、図書選定のアドバイスをいただいたりしています。また、別置コーナーの設置例を教えていただくこともあります。
- ・ 京都府立図書館との連携では、学校支援セットを活用しました。今年度は、1月末時点で10セットを利用しました。お借りした図書は廊下のブックトラックに設置し、他の図書と分けることで管理しやすくするとともに、学年の多くの児童が触れられるようにしました。



### イ 各種コンクール等への参加

- ・ 「第10回子ども読書本のしおりコンテスト」「第67回青少年読書感想文全国コンクール」「第51回お話を絵にするコンクール」など、様々なコンクールに参加をしました。子ども読書本のしおりコンテストでは、担任と司書教諭(加配)が連携して選書指導を行うことで、児童の読書の幅を広げることにつながりました。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 司書教諭によるブックトークなどの読書指導を行ったり、図書室の環境整備を工夫したりすることで、学校や家庭で進んで読書に取り組む児童が増えた。
- ・ 電子書籍を導入することで児童が読むことができる図書が大幅に増え、様々な時間に読書をする児童が多く見られるようになった。
- ・ 学校図書館運営チェックリスト(基本編・発展編)において、達成している・おおむね達成しているを合わせて83%を達成した。

### (2) 課題

- ・ 読書量の2極化を改善するよう、より多くの児童が興味を持つ取組を実施するとともに、常に学校図書館の情報を発信し続けるようにする。
- ・ 今後は電子書籍と紙の図書とを併用することで、さらに豊かな読書活動へとつなげていくようにする。
- ・ 多くの教師がブックトークやビブリオバトルなど、様々な手法を用いて読書活動の推進が図れるよう、指導法の研究会を行っていくようにする。
- ・ 「地域に開かれた学校図書館」を目指し、保護者や地域の方が利用できるように学校図書館の運営について検討する。